

# 学生国際協力団体 CHISE

尾内夏歩（3回生）、原田麗夢（3回生）、乾美紀

キーワード：ラオス、国際協力、教育支援

## 1. 団体概要

学生国際協力団体 CHISE（チーズ）は、『「はいチーズ」の一言で世界に広がれピースの輪！』をコンセプトに、ラオスの子どもたちの教育環境改善を目的として 2009年に設立された。現在のメンバーは22名で、環境人間学部以外にも国際商経学部、看護学部、工学部、理学部、また、関西学院大学や神戸市外国語大学の学生で構成されている。

CHISEは、ラオスの山岳地帯に位置するルアンパバーン県の郊外にある農村地域を拠点としている。これまでに5つの校舎建設と、幼稚園児を対象としたラオス語教室を開いてもらうプロジェクトを行った。2020年以降、コロナウイルスの影響を受けてオンライン上での交流活動を継続的に行っていたが、2023年から現地での活動を再開している。現在は、新たな支援先の村を探すことに力を入れており、オンライン視察と現地調査の両方を行っている。また、国内での活動も尽力しているため、以下に報告していきたい。

## 2. 具体的な活動内容

### 2.1 新たな支援先の検討

現在 CHISE は、2022年6月から始めたラオス語教室の支援プロジェクトを2023年10月で終了し、新たな支援先と支援内容を検討することに尽力している。これまで識字教室というソフトな支援を行ってきたため、校舎の修繕やトイレ建設のようなハードな支援を行いたいと考えている。2024年3月には現地を訪問し、新しい支援先の候補であったパクウー郡に位置する HuayLeum 村、HuayYen 村と、ポンサイ郡に位置する Donsai 村を訪れた。村へ訪れる前に現地コーディネーターの方が送ってくださった写真の様子から3村とも貧困度が高いような印象を受けた。しかしながら、実際に訪問してみると3つの村全て教育環境が整っており、CHISEが支援を行う必要はないと判断した。

2024年10月には、新たな支援先の候補であるポンサイ郡の Huayman 村と Tapho 村をオンライン上で視察し、教員や村長へのインタビューを行った。その結果、Tapho 村はモデル校を目指すほど整備された教育環境にあることが明らかとなり、支援先の候補から外すことにした。一方、Huayman 村は雨季の洪水被害が酷く、教材や机、椅子などが流され非常に深刻な状態であることが判明したため支援の候補とした。この結果を受け、2025年3月に Huayman 村を実際に訪れ、支援について検討する予定である。



写真1 オンラインで子どもたちに姫路所を見せる様子

### 2.2 ステーションナリドライブ

2025年1月に環境人間キャンパスで文具の寄付を募るステーションナリドライブを行った。このステーションナリドライブは、2025年3月に実施するスタディツアーで訪問する村の子どもたちに向けた寄付物を集めることを目的として行った。環境人間キャンパスでボックスを設置し、環境人間学部の学生や教職員の方だけでなく、地域の方々からも寄付物を頂くことができた。結果的に、文具だけでなく、子ども服やおもちゃなどラオスの子どもたちが喜びそうなものが多く届いた。CHISEだけでは到底集めることができないような量の寄付物を頂くことができ、非常に有難く思っている。この時の様子は、神戸新聞（姫路版:2024年1月30日）に掲載された。ステーションナリドライブにご協力して下さった方々に。この場を借りてお礼をお伝えしたい。



写真2 ステーションナードライブの新聞記事



写真3 姫路市立置塩中学校での講演会の様子

## 2.3 その他の支援・活動

2024年度に行ったその他の活動として以下の3点を挙げたい。

1点目はラオスの様子を収めた写真展の実施である。三宮で実施したこの活動は、私たちが実際にラオスを訪問し、私たちの目で見たものを写真として展示することで、ラオスを知らない人たちにも、ラオスと日本との違いを伝えることを目的としている。これにより、多くの人に感覚的にも現地の様子を知ってもらい、教育格差や教育支援について考えるきっかけ作りを行った。

2点目は2024年10月に JICA 関西で開催された国際協力入門セミナーのパネルディスカッションである。国際協力に興味のある方々との会話を通して、CHISEの活動を知ってもらおうと共に、我々も新たな気付きを得ることができた。

3点目は、現地での支援金を集めるための活動である。2023年度から継続的に行っている神戸での街頭募金や、学園祭での出店を行った。ここで集まった資金は、子ども達の文房具購入や村の校舎修理の費用に活用する予定である。

## 3. 地域との繋がり

2023年度も2022年度と同様、兵庫県立丹波篠山産業高等学校と交流し、高校生たちが教育支援について考えるきっかけ作りを行うことができた。その結果、篠山産業高校の学生たちが学校支援をする目的で文化祭で募金活動を行ったり、私たちが週末に神戸で行っている街頭募金にも一緒に参加してくれたりした。

その他にも、2024年7月には姫路市立置塩中学校で講演会と交流会を行った。この活動から、ラオスの子どもたちに向けた寄付物として、折り紙やシール等をいただいた。今年度の成果を元に、これからも我々の活動を通してラオスの教育の現状についてより多くの人に知ってもらえるよう励んでいきたい。

## 4. 今後の展望

2025年の3月に行う現地訪問では、CHISE の新たな支援先を見つけることを最大の目的としている。2024年9月のオンラインスタディツアーで見学したボンサイ郡の Huayman 村、またルアンパバーン市内にある Longlao 村、以前から支援を続けているナムバーク郡に位置する Phokhou 村の訪問し調査を行う予定である。実際に現地を訪問することでしか得られない情報を収集することで、村の自立を目標とした支援内容を考えていきたい。また、過去に CHISE が支援してきた村も訪問し、ステーションナードライブなどで寄付していただいた物を直接村の子どもたちに渡す予定である。

さらに、神戸では2回目の写真展を2月8・9日の2日間行う。以前の写真展開催で課題となった集客の問題と、規模の拡大を目指し準備を進めている。

2025年度からも現地訪問と、オンラインでの視察を組み合わせるにより、継続的な支援活動を行ってきたい。また、日本では高校や大学への講演会や、募金活動だけでなく、写真展のように私たちの活動内容を多くの人に知ってもらうきっかけ作りのイベントなども開催し、ラオスの教育の現状を伝えていきたいと考えている。